開会・オープニング

市長より、挨拶後、デジタル化の主な動きについて紹介。

●デジタル化の主な動きについて

- ・市役所でのBPRを含めた内製システムを本格稼働。
- ・小児科休日当番医へのオンライン診療導入。
- ・全市民対象のデジタルクーポンを手厚いサポート体制で実施。
- ・公民連携窓口「公民コネクト」による高齢者施設でのオンライン診療導入。
- ・市長を最高デジタル責任者とするDX推進体制の構築。
- ・日本DX大賞へのエントリー、ファイナリスト4団体となり、6月に決勝大会実施。

ディスカッション

はじめに、「各分野における令和6年度の取組」について、各会員より発表。

主な発表内容とそれに対する市長コメント

(福島県立医大)

マイナ保険証や電子処方箋実装、キビタン健康ネットの活用含めた医療DX検討について発表。

→(市長) 今年秋からモデル事業としてマイナンバーカードの救急情報への活用が始めるため、引き続き協力をお願いしたい。

(福島市私立幼稚園協会)

保護者とのコミュニケーションや子供たちとの関わりを増やすためデジタル化を進めたいと発表。

→(市長) 公立幼稚園でのデジタル化の取組について言及、私立幼稚園でもデジタル化を進めてほしい。

(シルバー人材センター)

ICT班による「ふくしまデジタルサポートデスク」相談業務の拡充やスマホハンドブックを使ったセミナー事業の取り組みについて発表。

→(市長) ICT班は全国的にも珍しい取り組み。本市の特徴的なものとして前に進めてほしい。

続いて、これからの市全体のデジタル化をどう進めていくかについて意見交換を行う。

主な意見交換の内容

- ・産業の成長と同時にデジタル化を進めていくことが重要であり、中小企業の考えを聞きたい。

→(中小企業家同友会長井氏)

中小企業のデジタル化が進んでいない現状について言及、地域の生産性向上には中小企業においてデジタル化に取り組む必要があるとの認識を示した。

- ・健康管理システムの標準化や診療予約のデジタル化推進において分野横断的な取り組みを進めるために「ふくしまデジタル推進協議会」が重要である。

→(市長)

分野横断的な協力と連携がこの協議会の目的であり、具体的な提言をいただきたいとの認識を示した。併せて「公民コネクト」窓口の利用についても言及。